

Contents

巻頭のことば 図書館という空間 島根大学附属図書館 医学図書館長 廣田 秋彦	1
特集記事 インフォ・アクセス10年 /もうすぐ図書館40年	2-3
Q&A そもそも インフォ・アクセスとは	4
編集後記	4

巻頭のことば

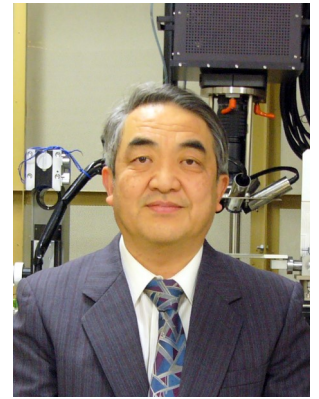
図書館という空間

島根大学附属図書館 医学図書館長 廣田 秋彦

「皆さんは図書館という言葉から何を連想されますか。大学の図書館と高校までの図書館の違いは何でしょうか。理想の話で構いません。」と学生に尋ねてみても、返ってくるのは、専門書や洋書の並ぶ書架、机、椅子などのイメージばかりです。しかし、欧米の伝統ある大学や研究所の図書館に実際に行ってみたりテレビや写真で観たりすると、そこには「外界から隔離された学問をする為の空間」という独特の佇まいを感じ取ることが出来るように思います。その空間は時間の流れさえ支配しているように感じられます。

日本では図書館は、横浜市の金沢文庫で知られるように、昔は文庫という名で呼ばれており、閑谷学校(備前市)の文庫の建物からは同様の空間の香りを感じ取ることが出来るように思います。アレキサンドリアが文化都市である証として、クレオパトラが当時世界最大の図書館を創設して以来、図書館は情報の砦であったことによる面も大きいかもしれません。しかし、近年この座はネットに奪われ、図書館は学生の自習の場と化し、教員の足は遠のくばかりです。私は昔から、学会の空き時間などを使って40を超える大学の図書館を見学してきましたが、最近、伝統ある帝大の図書館でも、独特の佇まいを醸し出す空間色が急速に失われてきているように感じます。

1日わずか6分、仕事に直接関係しない読書をするだけでストレスが大幅に減少するとの研究結果もあるそうですが、どのような空間で読書をするのかも非常に大切なことだと思います。松江キャンパスの附属図書館本館が大改装にあたって目指したものは、「学生に開かれた空間」とのことですが、私は、医学図書館は市立図書館等とは一線を画した、大学の図書館として学問の香り漂う空間であり続けて欲しいと思います。その為には、空間の佇まいは、器はもちろんですが、その中にいる利用者自身によっても作られるのだという自覚を持っていただきたいと願っております。



(実験室にて)

トリニティ・カレッジ
(ダブリン大学/アイルランド)の図書館
(Dublin - Trinity College Library
/ by Irish Welcome Tours)

医学図書館の広報誌



『インフォ・アクセス』は

創刊10周年を迎えました。



イエール大学(アメリカ)の
バイネック希観書写本図書館
(Yale University's
Beinecke Rare Book
and Manuscript Library
/ by Lauren Manning)



館名	広報誌	トピックス	館長	
1975(S50)	-	10月 島根医科大学開学	深瀬 政市 学長(事務取扱) 1975.10.1-1979.1.31	
1976(S51)		4月 仮校舎(出雲市大津町)に閲覧室を仮設し開館		
1977(S52)		5月 本校舎(出雲市塩冶町)に移転し、講義棟3Fにて開館		
1978(S53)				
1979(S54)	図書館ニュース	3月 図書館棟を新築	森 忠三 教授 小児科学 1979.2.1-1981.1.31	
1980(S55)		10月 日本医学図書館協会に入会		
1981(S56)		 	中村 和成 教授 解剖学 1981.2.1-1981.9.20	
1982(S57)		<p>1976年頃 仮校舎の閲覧室※</p> <p>1979年頃 2F閲覧室(南側)</p>		
1983(S58)		 	服部 圭佑 教授 薬理学 1982.1.1-1983.12.31	
1984(S59)		<p>1994年頃 マルチメディアコーナー</p> <p>1994年頃 当時の図書館利用証</p>		
1985(S60)		図書館報		小瀧 信夫 教授 心理学 1984.1.1-1985.12.31
1986(S61)			8月 電動式集密書架を1F書庫に設置	
1987(S62)				野手 信哉 教授 内科学 1986.1.1-1987.3.31
1988(S63)				
1989(H1)	2月 特別コレクションとして西東文庫(全825冊)を購入		島田 宜浩 教授 内科学 1987.4.1-1989.3.31	
1990(H2)	4月 閉館時特別利用(24時間開館)を開始(閲覧のみ/教員・院生のみ) 10月 一般市民への図書館の公開を開始			
1991(H3)	8月 島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会を結成		齋藤 肇 教授 微生物・免疫学 1989.4.1-1991.3.31	
1992(H4)	3月 MEDLINE(CD-ROM版)を提供開始 11月 医学中央雑誌(CD-ROM版)を提供開始			
1993(H5)	11月 OPAC-PCサービスにより研究室からの蔵書検索が可能に		森山 勝利 教授 内科学 1991.4.1-1993.3.31	
1994(H6)	11月 OPACでの蔵書検索が24時間利用可能に			
1995(H7)	7月 自動貸出装置設置。貸出が24時間可能に 11月 マルチメディアコーナーを2F閲覧室に設置		前野 巍 教授 生理学 1993.4.1-1995.3.31	
1996(H8)	4月 学内LANによる、OPACやMEDLINE、インターネットを提供開始 6月 モノクロ複写機(私費用)を2F閲覧室に設置			
1997(H9)	10月 CURRENT CONTENTS(CD-ROM版)を提供開始		瀬戸川 朝一 教授 眼科学 1995.4.1-1997.3.31	

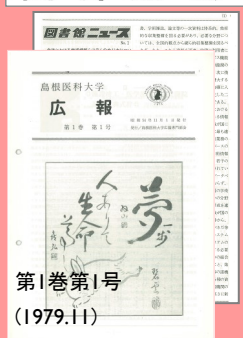
※ モノクロページからの引用

開学10周年記念行事実行委員会記念誌編集部会. 島根医科大学開学10周年記念誌. 島根医科大学, 1985, 226p.

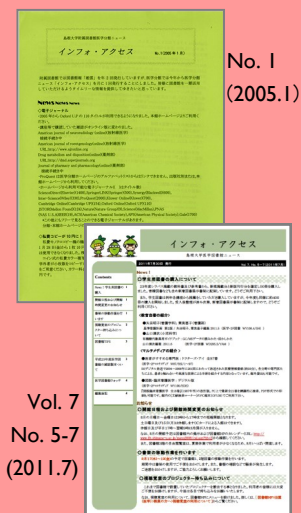
	館名	広報誌	トピックス		館長		
1997(H9)	島根医科大学 附属図書館	図書館報	4月	日曜・祝日開館を開始。閉館時特別利用を5-6年にも拡大	榊村 純生 教授 生理学 1997.4.1-1999.3.31		
1998(H10)			7月	MEDLINE(ホームページ版)を提供開始			
1999(H11)			4月	学内LANによる、医学中央雑誌を提供開始	森川 茂 教授 病理学 1999.4.1-2001.3.31		
2000(H12)			5月	1F書庫増設。			
2001(H13)			7月	閉館時特別利用を1-4年にも拡大			
2002(H14)			3月	カラー複写機(私費用)を導入	加藤 譲 教授 内科学 2001.4.1-2003.3.31		
			4月	CINAHL、医学中央雑誌(Web版)の提供開始			
			4月	電子ジャーナルを提供開始 4月 紀要類バックナンバーの電子化開始 4月 カラー複写機(公費用)導入			
2003(H15)				2月	図書館セミナー室完成	山根 洋右 教授 環境予防医学 2003.4.1-2004.3.31	
			4月	CINAHL、EBMRをWeb版に切り替え			
2004(H16)	島根大学 附属図書館	-	10月	島根大学と島根医科大学が統合	吉村 安郎 教授 歯科口腔外科学 2004.4.1-2006.3.31		
			4月	島根大学が国立大学法人となる			
2005(H17)			6月	本の交換広場を2Fに設置	高畠 利一 教授 内科学 2006.4.1-2008.3.31		
			10月	展示会「島根にもたらされた華岡流医術」を開催			
2006(H18)			2月	大森文庫室改修	富岡 治明 教授 微生物・免疫学 2008.4.1-2012.3.31		
			7月	MyLibrary(現MyOPAC)を提供開始			
			10月	展示会「在村医の画人的素養」を開催			
2007(H19)			医学分館	-	8月	耐震改修工事(~12月)	高畠 利一 教授 内科学 2006.4.1-2008.3.31
			10月		くえびこ祭医学関連企画で講演会・展示会を実施		
			11月		出雲市立図書館及び島根県立大学短期大学部 出雲キャンパス図書館との相互協力協定を締結。 島根県立図書館・松江市立図書館との合同展示会 「出雲国に伝播した華岡流医術とその時代」を開催		
2008(H20)	医学図書館	3月	図書『華岡流医術の世界』を刊行		富岡 治明 教授 微生物・免疫学 2008.4.1-2012.3.31		
		8月	出雲市立図書館との合同展示会 「出雲にもたらされた華岡流医術の世界」を開催				
2009(H21)					廣田 秋彦 教授 生理学 2012.4.1-2015.3.31		
2010(H22)		4月	名称を医学分館から医学図書館へ変更				
		10月	出雲市立図書館との合同展示会「異国からみたニッポン」を開催				
2011(H23)					廣田 秋彦 教授 生理学 2012.4.1-2015.3.31		
2012(H24)		1月	アメニティコーナーを1Fに設置				
2013(H25)		4月	デジタル・サイネージ(電子看板)を設置				
2014(H26)			8月	無線LANアクセスポイントを2F閲覧室に設置			
2015(H27)							

図書館広報誌の変遷

- 1) 図書館ニュース
(1979.11-1987.10)
- 2) 図書館報
(1987.11-2003.3)
- 月刊『島根医科大学広報』に挟み込まれていた。

- 3) 淞雲(しょううん)
(2004.2-現在)
- 松江キャンパスの本館との合同誌。年2回発行。
- 4) インフォ・アクセス
(2005.1-現在)
- 月刊。2011年7月よりデザインの大幅な改定。



編集後記

そもそも『インフォ・アクセス』とは

Q 『インフォ・アクセス』とは

医学図書館の広報誌です

島根大学の附属図書館には様々な広報誌があります。その中でも出雲キャンパスに特化しているのが、広報誌『インフォ・アクセス』です。

A

Q どういういきさつで創刊されたのか

お知らせの頻度を高める
目的でした

月刊だった広報誌が大学統合により廃刊。その後創刊された図書館広報誌は年2回発行で、日々のお知らせをタイムリーに発信できませんでした。なので月1発行による、医学図書館の広報誌として創刊されました。

A

Q どうやったら読むことが出来るのか

媒体によって異なります

印刷物は図書館内で手に入ります。教職員の方々に向けては、講座等へ学内便でもお送りしています。

PDFでも読むことが出来ます。最新号は図書館HPの「お知らせ」で案内しています。

A

Q 時々掲載される「図書館TIPS」とは何か

図書館に関するHow toを
紹介する記事です

TIPS(ティップス)とはTIP(コツや小技の意)からきており、IT関連の裏技も意味します。「図書館TIPS」の内容は、裏技というと大げさですが…。

A

Q 誌名の意味は何か

情報を届けたいという気持ちです

「インフォメーション」と「アクセス」を合わせた造語です。創刊に携わった図書館の係長のひらめきにより名づけられました。

A

Q 誰に向けた広報誌なのか

出雲キャンパスの皆さんに向けて
発信しています

出雲キャンパスに所属する学生・教員・職員の皆さんに向けた情報を発信しています。1誌で皆さん全員を対象にしようとするなんて、とても欲張りなのかもしれません。加えて、図書館の歴史を記録する役割も担っています。

A

Q バックナンバーはもう読めないのか

いいえ。図書館HPで読めます

創刊号から最新号も含め、図書館HPでいつでも読めます。

図書館HP/図書館について/広報誌

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/menu.asp?mode=1&id=2242>

A

Q 昔見た紙面と違う気が……

はい。デザインが変化しています

当初はモノクロの原稿を色のついた紙に印刷していましたが、徐々にカラーが増え、デザインも2011年7月に大幅改定されました。担当者の交代に合わせて変わっていています。

A

ご愛顧いただきまして創刊10周年を迎えました。正直なところ、果たして読んでいただけているのか…と不安に思うことも。「読んでるよ!」というお声あれば、とても喜びます。これからも医学図書館の情報をお届けしますので今後ともよろしくお願ひします。(A.N.)

発行日 2015(平成27)年 3月15日
発行者 島根大学附属図書館医学図書館
〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL: 0853-20-2092 FAX: 0853-20-2095